



学習サークルBE-GLOBAL (藤沢市)

## 子どもの学びを通じて地域をつなげる 居場所づくり



### ■ 学びを通じた地域づくり

学習サークル BE-GLOBALは「学びを通じて地域が繋がり、みんなで世界を広げよう」をテーマに、2016年に藤沢市鶴沼で発足しました。立ち上げの中心は教育に携わっているメ

ンバーで、代表の新田 里奈さんは高校の英語教師です。当初は英語や数学、アートの講座など、子どもの学習支援がメインでした。活動を続けるうちに参加した親子から、この場を活用してもっと楽しいことをしたいとニーズが広がり、親子を対象とした講座や親だけを対象とした講座など、活動の幅を広げられました。

■ 地域の資源をフルに活用  
そこで問題となったのが、

活動拠点です。元々は公民館などの公共施設を活用していましたが、参加費のかかる講座を開催できないなど制約が多かったため鶴沼商店街に自分たちで活動スペース「BE-SPACE kugenuma」をオープンしました。10畳ほどのスペースはとてもアットホーム。週8コマ程度の定期講座のほか、月に4回程度、不定期の講座を開催しています。講座を主催する地域の方々がスペース



## ボランティア

料を支払う仕組みです。

また、最初は講座の参加者として関わっていた人が、自分の特技を活かして別の講座の主催者になるという良い循環が生まれています。講座のテーマもギター講座や耳つぼ講座に至るまで多種多様。子どもたちに教えられることも多く、自分の好きなことをやっているのが失敗はないのだそうです。

### ■ 大切なのは表現力

単なる語学修得ではなく表現

一言アドバイス  
自分たちが楽しむことが一番です。

学習サークルBE-GLOBAL  
代表 新田 里奈さん (写真左から2番目)

成功のコツ

- ・自由に活動できるスペースづくり
- ・自分たちが楽しんでいる姿を見せて周囲を巻き込む
- ・ニーズに柔軟に応えられるよう活動計画は大まかに立てる

力を身につけてもらうことで、グローバルな人材を地域で育て、世界を舞台に活躍してもらうことがサークルの願いであり、講座では子どもにありのままの自分を表現してもらうことを大切にしています。

それゆえアート講座で使うスケッチブックはかなり大きなサイズ。自由に表現することが自己肯定感につながります。通っているうちに子どもの方から自発的に「行きたい」と言ってくるそうです。

### ■ 無理なく続けるには

「活動を続けるうえで最も大切

なのは自分たちが楽しむこと」と新田さんは話します。新田さんや講座の主催者は今でも資金面で苦労しています。ただ、自分たちが楽しんでいる姿を見せることで地域の中で様々なつながりができ、物資の寄付を受けるようになりました。また、ニーズに柔軟に対応するために、団体の年間活動計画は大まかな予定のみを立てるようにしています。これからも楽しみながら無理のない形で新しいことにチャレンジしていくBE-GLOBALです。





NPO法人子育ての輪Lei (中井町)

## 防災と子育ての課題に挑むNPO

### ■子育てを「共有」する社会へ

「笑顔の花を咲かせて輪を作る」をテーマに、地域全体で子育てをする社会を築くことを目指して活動しているのがこのNPO。きっかけは、大きな災害が報じられたときに「自分は自分の子どもを守るのだろうか」と考えたこと。このママたちの不安を解消しようと、2017年に現理事長の海野 美和さんを中心に中井町を拠点として発足しました。



災害時に身を守るポーズを取り入れた子ども向けのダンスの創作など、防災関連の取り組みの

ほか「コミュニティを広げることが全ての地域課題の解決につながる」との想いから、古民家を改装した子どもの居場所づくりやマルシェイベントにも取り組んでいます。徐々にネットワークが広がり、今では中井町、秦野市、小田原市、大磯町など広い範囲で活動しています。

### ■「想定内」にしてあげば

「防災と一緒に子育ても様々な状況を『想定内』にしていくことが大切」と副理事長の磯辺



## 法人

友里さんは話します。コミュニティの輪を広げてほかの家の子どもとも触れ合うことで、自分の子どもがその年齢に達したときにどのような状況になるかを想定しておくことができます。

また、中でも輪を広げるための軸になっているのは「コミュニティ食堂おにぎり」。中井町と秦野市で月に1回ずつ開催しており、多いときには大人と子ども合わせて40名以上の方が集まります。いわゆる「子ども食堂」

一言アドバイス  
感謝の気持ちをしっかりと伝えてください。



NPO法人子育ての輪Lei  
理事長 海野 美和さん (写真左)  
副理事長 磯辺 友里さん (写真右)

**成功のコツ**

- ・コミュニティの輪を広げるため、一方通行ではなく、大人も子どもも一緒に楽しむこと
- ・法人への入会ではなく、まずはスタッフとして気楽に参加してもらうこと
- ・関わった人に感謝の気持ちをしっかりと伝えること

と違うのは、子どもにご飯を「提供」するのではなく、あくまで調理と食事を大人と子どもと一緒に楽しむ取組みであるという点。誰でも気軽に来られるようにしたいと、海野さんの発案でこのような形としました。中井町と秦野市の両方に来る子もいるなど、コミュニティとして根付つつあります。

### ■全ての人に感謝を伝える

NPO法人としての役員・社員は合わせて15名程度ですが、仕事や子育てなどそれぞれが事情を抱えているので、常に動けるのは5名程度とのこと。人手

不足が課題です。

そこで現在取り組んでいるのがボランティアのスタッフを増やすこと。いきなり法人への入会はハードルが高いため、空いた時間に無理なく少しずつ活動に参加してもらっています。ボランティアのスタッフにもその都度しっかり感謝を伝えます。「あなたが必要」と感じてもらうことが大切です。全てを整えるのではなく、まずはやってみることがポイント。課題や想いを共有でき、そして「未完成」な雰囲気だからこそ、まだまだ仲間は増えていきそうです。





NPO法人こころみ (小田原市)

## PTA活動からスタートし、子育てを通じた地域の輪

### ■PTA活動から生まれるつながり

「NPO法人こころみ」は、小田原市内のPTA活動を通じて知り合ったメンバーが2018年10月に設立しました。立ち上げの中心となったのは、理事長の益田 麻衣子さんと理事の大木 健一さん。指名されたことがきっかけで始めたPTA活動でしたが、メンバーとの間で同じ課題を共有、解決していく中で強い絆ができ、任期とともに解散してしまうのがもったいないとの

想いから、団体を立ち上げました。会社員、主婦、農家、漁師、公務員など、多種多様な職種のメンバーが集まり、子育てを基軸としたつながりを地域に広げています。

### ■自然の中での学び

設立当初から取り組んでいるのは、子どもたちが休みの日に自然と触れ合えるイベント。地元の農家やお米屋さんとのつながりから、じゃがいもの植え付け・収穫や田植えのイベントを

開催しました。稲刈りの時期には、刈り取った稲からおにぎりを作って食べるイベントも開催。大人たちは子どもたちを指導、見守る立場ですが、子どもたちと一緒におにぎりを作るのは大人にとってもとても楽しく、大人同士が親睦を深める場にもなっています。

### ■子どもの居場所づくり

子どもたちが学校が終わった後、ゲームで遊んだり、本を読んだり、自由に遊ぶことができ



一言アドバイス  
デザインにはこだわって。

NPO法人こころみ  
理事長 益田 麻衣子さん (写真右)  
理事 大木 健一さん (写真左)

**成功のコツ**

- ・NPO法人とすることで団体の信用度を上げる
- ・ホームページや名刺などのデザインを大切に、コンセプトが伝わりやすくする
- ・大人が進んで子育てを楽しんでいる姿を見せる

## た地域の輪

るよう、2019年12月、古民家を借りて、子どもたちの居場所「こころみルーム」を試験的にスタートさせました。浮かび上がってきた課題は平日の人手不足。現在は月に1~2回の開放ですが、この課題を解決して、ゆくゆくはもっと頻度を上げていきたいとのことです。

### ■コンセプトを伝える

設立当初からNPO法人としてスタートしました。法人とすることで団体の信用度も上が

り、寄付も得やすくなります。法人設立には難しい手続きがありますが、仕事柄書類作成の得意なメンバーがおり、その点は苦にならなかったそうです。2020年2月現在で、法人の構成員は12名。個人会員、法人会員を合わせて延べ30名程度で活動しています。

団体のテーマは「笑顔のつながりで仕合わせをひろげる」。このコンセプトをトータルで伝えるために、デザイナーと話し合い、ホームページの作成や名刺のデザインをしてもらいました。

### ■子育ては楽しいもの

「子どもの孤独や貧困など、最近は子育ての負の側面ばかりが取り上げられがちですが、本来子育ては楽しいものです」と益田さん。大人が進んで子育てを楽しんでいる姿を見せることで、それを見た子どもたちも後に続いてくれる、そんな想いで活動を続けています。

